道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

私の魂のルーツがあるとすれば、それは広大な地平線。ある時は砂、ある時は草原。途中にはいくつもの峠があり、厳しいけれど恵みをくれるその道を進み続けていたような気がします。そんな記憶に呼びかけるようなバイクイベントが、毎年開催される「SSTR（サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー）。日の出と共に任意の太平洋を出発し、道の駅やSA／PAなどのスタンプラリーをしながら日の入りまでに日本海の千里浜（石川県）まで辿り着くという壮大な遊びです。移動の旅や出会いが大好きなライダーたちは、ヨーイドンで1箇所に向かうだけでワクワク。コロナ禍の影響でこの2年は延期や開催方法を模索している主催者でしたが、今年は参加者5千2百人が密にならぬよう、10月前半の2週間のどこかで走るという形にしました。そして始まってみれば、夏のウエアで走れる日が続き、かつ壮大なサンセットが数多く見られて、みんな大喜び。

私は最終日のゲストだったのですが、その前日に松本のカフェからスタートしました。そう、「ちょんぼ」です。静岡県の清水から出る予定だったのですが、足首骨折後初めての長距離とあって、安全をとって距離を選択。ところがビックリです。2週間前に乗った時は少し違和感があったのですが、当日は平気どころか絶好調。ギアチェンジや振動はむしろリハビリになるのか、往復520キロを快適に終えることができたのです。色づき始めた初秋の風景が素晴らしかったこともあるでしょう。久々の車上の風は本当に心地よいものでした。リハビリ頑張ってよかった～！

そして、千里浜に降り立ったのは、なんと日の入り1分前。レースではありませんが、そこだけチャレンジできて嬉しかった。主催者代表の風間深志さんをはじめ、懐かしい参加者の顔にも会えて、感動が押し寄せます。翌日は昼過ぎに到着する872名の参加者をゴールのなぎさドライブウェイで出迎えたり、トークしたりで、久々の催しを満喫。振り返れば、コロナ禍が始まってから初めてのイベントでした。昨年はこのSSTRでホールイベントがありましたが、かなりの厳戒態勢で至近距離でのふれあいはナシ。いつものように浜辺で大勢の人たちと記念撮影したり語らったりするのは、久々なことでした。目標を掲げ、時間を作り、綿密な計画のもと集まったライダーたちは、道中我が町にある保福寺峠のSSに行くために、カフェの前を2度も通っていたのです。お客さんと大騒ぎで手を振っていたあの中に、まさか篠塚さんがいたとは（ゼッケン1番のコルトギャラン。当然のクラス一位！）。

そして、もう一人ここで30年ぶりに再会したのは、私がパリダカに初参加する前の創世記に何度も2輪で走っていた中村洋さん。現在は岐阜県で僧侶になられていますが、今でも仕事でモータースポーツに関わり合っていると聞いて嬉しくなりました。篠塚さんもレースを含む様々なゲストイベントで休む暇もないほど忙しいそうです。風間さんは、山中湖村初の観光大使に就任したばかり。新しい形のアウトドアアクティビティーを展開していくそうで、「地球元気村」から始まった「遊ぼう」がテーマのイベントは、大きくなる一方です。加曽利隆さんも相変わらず地球を走り回っているし、レジェンドたちはなぜこんなに元気なのでしょう。やはり地球にいるだけで魂が騒ぐからでしょうか。寒くなってきたけれど、私ももうひと走りしたい気分でアリマス♪

3週間連続で千里浜へ行った同い年のベテラン茂呂さん（左）。私のランをサポートしてくれました。

昨年度の大会ポスターに登場した北アルプス大橋。（高山市新穂高温泉近く）は、今やライダーの聖地。

私もこの格好でお出迎え！左より克江さん、ロンダさん、ゲストの鉄人賀曽利隆さん、発案者のサエコさん。

260キロ走って千里浜に降りたら、この夕陽。涙がでそう。この日は107人のライダーが到着♪

一瞬マスクを撮ってパチリ。左より、中村さん、主催者の風間さん、篠塚さん。話止まりませ～ん。

都市計画の中の街路㉖

ストリート・トポニミー事始め（その2）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

ストリート・トポニミー（1984年）を経て、その動きがピークを迎えます。道路名称付与は、住民が道路に愛着を持つことや道路の道標としての効果を上げること、まちづくりの気分の高揚などをねらい、その過程では、名称が一般公募されたり、選定委員会に地元住民が加わるなどの市民参加も図られたようです。付与された道路名称にはどのような特徴があるでしょうか？

論文では、「通り」の名称の由来を「人文地理的特性」（施設、参道、商店街、街路樹など）、「自然地理的特性」（橋梁、坂、地形、自然現象、道路の方向など）、「イベント」（歴史上の出来事や人名）、「町名」（旧町名を含む）、「イメージ」（元号など）で分類しています。「銀座マロニエ通り」は「銀座」と「マロニエ」に分割するなど名称をさらに細かく分類すると、名称の由来の上位8タイプで全体の7割を占めているようで、その一方で、例えば、中央区では過去にあった施設や旧町名をはじめとする歴史的名称、台東区や墨田区では橋梁名が通りの名称として用いられたり、江東区や豊島区では商店街の名称が付されているものが多いなど区による特徴も見られるようです。

先にとりあげた元号通りは4路線、既に知られていると思います。

いつも思うことですが日本人は性善説が大好きな様で、お願いや忖度が当然の事なのでしょう。責任を取る事、責任を負わされる事が本当に嫌なんでしょうね。その為には節操なんて持ち合わせてらんないのかにも事欠く人がどれ程いると思ってるんだ！節操はないのか。」と怒り心頭だったと思います。

少し話が大きくなりましたが、この節操はとても大事なことだと思います。

今後のコロナ感染の状況も、路上での交通安全の状況も、家を一歩出たら、いつどこからキケンが降りかかるかわからない、便利にはなったが安心出来ないご時世です。自己防衛意識を一層高め実践しなければならないと気を引き締める今日この頃です。

人名を冠したこの通り、その由来は？

参考文献：柴川仁宏・渡邉貴介・羽生冬佳（1999）「『通り』の名称の特性および名称とまちのイメージとの相互作用に関する研究」、『都市計画論文集』、No・34、pp・145-150

ハッと思いました

街に人が増えましたね。駅や電車内は特に感じます。

何もかもが解除されて、浮足立った感の風潮もチラホラ。リモートワークで一年半近くが過ぎましたが、経済は変わらず回っています。

なのにオール解除になったとたん、以前と変わらぬ人の出です。

きっと、リモートにシフトしたと言うより、リモートと言う新しい形態がプラスαされたのでしょうか。連日、激安の大盛り料理や、写真写りの映えるだけ来ない程の）料理などを紹介しています。

じいちゃん、ばあちゃんが生きていたら、「食い物で遊ぶな！。世の中にはその日の食にも事欠く人がどれ程いると思ってるんだ！節操はないのか。」と怒り心頭だったと思います。

少し話が大きくなりましたが、この節操はとても大事なことだと思います。

今後のコロナ感染の状況も、路上での交通安全の状況も、家を一歩出たら、いつどこからキケンが降りかかるかわからない、便利にはなったが安心出来ないご時世です。自己防衛意識を一層高め実践しなければならないと気を引き締める今日この頃です。

社会が変わり始めています。

兎も角、自宅時間が増えてテレビを見る機会が多くなった所で思う事。それは、世界的に地球温暖化ストップと騒ぎたてSDGsとやらで持続可能なナンチャラと叫び、それを掻き立てるメディア。そのメディアは激辛（作る本人が味見も出の料理、時間内の早食いやきくなりましたが、この節操はとても大事なことだと